

保身、愛国と屈服：ある偽満州国の「協力者」の心理状態に対する考察

江 沛（南開大学）

原文は中国語、翻訳：于寧

本論文は『轍印深深——一個偽満軍官的日記（ある満洲国軍官の日記）』に基づき、主人公の偽軍（傀儡軍）下士官の施明儒を取り上げる。施は1937年から1945年までの間に、偽満州国において表では偽軍の身分を持ちながらも、裏では抗日の行動を取っていた。しかし、その行動では大局を変えられないことに極度な苦痛や抑圧、困惑の感情を覚えていた。その心境と生活の場面を緻密に整理することを通じて、従来の民族国家の立場から被占領地区の歴史を解釈する単一の認識パターンを超越し、日本軍の強権下での偽満州国の「協力者」の生存状態を十分考慮したうえで、ナショナリズム的な感情の影響を強調しながらも、被占領下での人間性の脆弱さと複雑さを明示しようとする。いわゆる「白い皮」の仮面を被りながら、主人公は現実に対して憂患と焦慮から、受け止めと従順へという心理状態の変化を経験し、怒り、屈辱感そして悔いなどの感情も伴っていた。これは中国東北被占領地区の民衆の心理状態における代表的な特徴を持っていると本論文で主張する。

■江沛（JIANG, Pei）

南開大学歴史学院教授。南開大学中外文明交叉科学研究センター執行主任。中国史学会理事、中国現代史学会副会長、天津歴史学学会副理事長を兼任。2014年から2020年までは南開大学歴史学院院長を務めた。『中国近代交通社会史叢書』などの編集を主宰。日本大阪大学、広島大学、中国台湾政治大学の客員教授を歴任。専攻は民国史、中国近代社会史。現在は首席専門家として国家社会科学基金・抗戦研究プロジェクトを主宰。

主な著作：『戦国作派思潮研究』、天津人民出版社、2001年。『国民党結構史論』（下巻）、中華書局、2011年。『城市化進程研究』（中華民国專題史叢書之九）、南京大学出版社、2015年。